

FUJI Sankei

Business i.

昭和33年1月27日 第三種郵便物認可
日曜休刊

2013(平成25)年

8 | 1 [木]

<日刊 19754 号>

フジ医療器 最高峰モデル投入で攻勢

ベッド感覚のマッサージチェア

キラリ!
わが社の商品・サービス

「心身に極上の休息をもたらしたい」。そんな思いで開発した電気マッサージチェアの最高峰モデルが、健康機器メーカーのフジ医療器(大阪市中央区)から誕生する。健康意識の高い生活者が増加し高価格帯の家電・日用品をめぐる夏商戦が盛り上がる中、新商品投入を弾みにマッサージ機分野の商機を拡大したい考えだ。

中高年ターゲット

商品名は「サイバーリラックス マッサージチェア AS-960」で、8月1日に発売する。価格はオープンだが、実勢価格は47万円前後の見込み。黒とベージュの2種類から選べる。販売は全国の家電量販店などで、

健康投資に意欲的な中高年を主な対象に売り込む。

特徴の一つが、ベッドで寝ているような水平に近い状態を実現できる点。腰を下ろす座面が前方にスライドしながら、それに連動して背もたれが背後に倒れて足をマッサージする部分が高くなる「新クライニング機構」を採用した。同時に腕をもむ部分も後方に移動し、心地よい姿勢へと導く。

従来品は、背もたれと足をともむ部分しか動かなかった。新機構によって省スペースも実現。脚部の後ろ側に20センチの空間があれば使用できるという。

プロのマッサージ師のような動きにもこだわった。背中や肩などの筋肉をもみほぐす「もみ玉」は2つ搭載。その装置の上下、左右、前後の動きすべての動作時間を制御できる。マッサージの速度は4段階から選べ、もみ玉の一回転に要する時間は



1.8秒から5秒まである。

仮に体重が重い利用者の重症がもみ玉にかかる、回転時間に影響する。新商品では、もみ玉への負荷を検知して駆動力を増やし設定した時間内にもみ玉が一回転するようにした。32種類に上るもみ技と、専用プログ

マッサージチェアの最高峰モデルに座り新機能を紹介するフジ医療器の木原定男社長―東京都港区

努めて市場をリードしてきた。AS-960の商品化によって、10万円台の「ソファ型」から「超極上モデル」に至る幅広いニーズに応える態勢を整えた形だ。

国内のマッサージチェア市場は約35万台と推定され、世帯普及率は10%強。それだけに市場開拓の余地が大きい。

木原定男社長は「健康という価値を買う消費者は増えており、市場のポテンシャルは大きい。引き続き製品の進化に取り組み、普及率を30%に引き上げたい」と意気込む。今回の新商品については、年間3万台の販売が当面の目標だ。

(白井慎太郎)

ラムに基づく30分間の「ソムリエ」コースを用意したことも売りだ。

世帯普及率30%へ

同社は、1954年に第1号機の「木製あんま機」を開発以来、マッサージチェアの高機能化に